

センサラーム・解説①

動作区分の選定

本器の電源が停電した時に、出力接点が安全サイドに入るように、用途に応じて動作方式を選定してください。

● 加熱の場合の例

非通電時に下限接点がONになる動作方式を加熱制御に用いると、本器の電源が停電した時に、温度が設定値より低いものとみなされて、ヒータが動作し続けてオーバーヒートを招きます。従って、加熱の場合は、停電時に上限接点がONになる動作方式を選定してください。

● 冷却の場合の例

非通電時に上限接点がONになる動作方式を冷却制御に用いると、本器の電源が停電した時に、温度が設定値より高いものとみなされて、クーラが動作し続けて過冷却を招きます。従って、冷却の場合は、停電時に下限接点がONになる動作方式を選定してください。

接点動作説明(代表例)

● センサラーム

上限警報 (異常時リレー励磁)

電源		OFF	ON	
入力%と設定%の状態		関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分 A	リレー接点 出力 (上限)			

下限警報 (異常時リレー励磁)

電源		OFF	ON	
入力%と設定%の状態		関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分 C	リレー接点 出力 (下限)			

上限警報 (正常時リレー励磁)

電源		OFF	ON	
入力%と設定%の状態		関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分 B	リレー接点 出力 (上限)			

下限警報 (正常時リレー励磁)

電源		OFF	ON	
入力%と設定%の状態		関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分 D	リレー接点 出力 (下限)			

● 極性付直流センサラーム(ASB)、偏差アラームセッタ(ASH)

上限警報

電源		OFF	ON	
入力%と設定%の状態		関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分 A	設定値>0% 上限警報 異常時 リレー励磁			
	設定値<0% 上限警報 正常時 リレー励磁			

下限警報

電源		OFF	ON	
入力%と設定%の状態		関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分 C	設定値>0% 下限警報 正常時 リレー励磁			
	設定値<0% 下限警報 異常時 リレー励磁			

上限警報

電源		OFF	ON	
入力%と設定%の状態		関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分 B	設定値>0% 上限警報 正常時 リレー励磁			
	設定値<0% 上限警報 異常時 リレー励磁			

下限警報

電源		OFF	ON	
入力%と設定%の状態		関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分 D	設定値>0% 下限警報 異常時 リレー励磁			
	設定値<0% 下限警報 正常時 リレー励磁			

※偏差アラームセッタ(ASH)には、動作区分BおよびCはありません。

センサラーム・解説②

接点動作説明(代表例)

● アナログ出力付センサラーム

上限警報 (異常時リレー励磁)

電源		OFF	ON	
入力%と設定%の状態		関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分	A	リレー接点出力(上限)		

下限警報 (異常時リレー励磁)

電源		OFF	ON	
入力%と設定%の状態		関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分	C	リレー接点出力(下限)		

上限警報 (正常時リレー励磁)

電源		OFF	ON	
入力%と設定%の状態		関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分	B	リレー接点出力(上限)		

下限警報 (正常時リレー励磁)

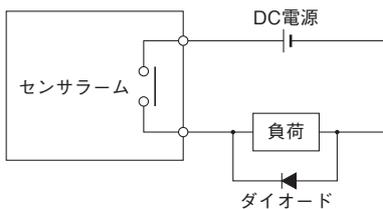
電源		OFF	ON	
入力%と設定%の状態		関連なし	入力<設定	入力>設定
動作区分	D	リレー接点出力(下限)		

接点保護とチャタリング防止

誘導性負荷(DCモータ、コイル等)を駆動する場合は、リレー接点の保護とチャタリング防止のため、下図に準じた方法で対策を施してご使用ください。

● 直流電源の場合

負荷に並列ダイオードまたはCR火花消去器を接続してください。



● 交流電源の場合

負荷にバリスタまたはCR火花消去器を接続してください。

